

いわぬま創生ラボ

vol.3
増刊号

No.1

ニューズレター

各チームで話し合った内容お伝えします第2弾
そして…

創生ラボの代替日程決まりました！！

第4回いわぬま創生ラボ

3月5日(土曜) 18:00~20:00

場所 いわぬま市民交流プラザ

2階 多目的室

3回目から話し合っている企画の詳細を詰め、
発表会の準備をします

第5回いわぬま創生ラボ

3月13日(日曜) 10:00~12:00

場所 JOCA東北(亀塚温泉の建物)

企画の発表会です

新型コロナウイルス感染症のさらなる拡大の影響により
開催を延期もしくは中止する場合があります

チーム「自然と共存し、災害に強い安心安全なまち」

参加者が所属する町内会同士での防災に関する情報交流を企画しました。

参加者の思い/やりたいこと

- ・地域では様々な問題を抱えている。防災についても同じ。
- ・自分の身は自分で守る。困っている人をどうやって助けるか。自助と共助。
- ・共通しているのは誰1人取り残さない。
- ・自然と共存＝自然と一緒に暮らしながら、地域が災害に強くなるのはどうしたらいいか。
- ・マニュアル作成の際に拘ったこと①死者を出さない②けが人を出さない③災害が長引いた場合、どうするか。ということ
- ・地域連携という形を考えたい。地域ごとの連携。町内会、自治会ごとの連携、自治会の中と、市民と町内会、行政区のまわりの地区や学区での連携、に行政を加える。それを目的にしたい。

今まで取り組んできたこと

- ・町内会(マンション)で住民向けのマニュアルと防災本部設置のマニュアルを作成した。
- ・災害時の安否確認の手段として安否確認カードを作成。カードをドアの外に貼る。
- ・町内会(住宅地)での防災マニュアルは作成している。

課題

- ・避難訓練に参加する人が少ない。全住民の1/5くらい。防災訓練に参加する人を増やしたい
- ・マンションでも、住宅地でも近隣住民の顔が分からない。
⇒外で遊んでいる子供、どこの誰か前なら住民皆が知っていた。顔が分かるというのはそういうこと。
- ・避難困難者に対する対応。
⇒町内会単位で対応するよう行政から言われたが準備ができていない。他の町内会も同様と聞いている。
- ・他の町内会、防災組織の取組みが分からない。
- ・町内会によって温度差が大きい。

企画案

チームメンバーの所属する2町内会を中心とした 防災に関する情報交換会を開催する

- ・要避難困難への対応をどのようにしているか、情報を共有したい。それだけでも全然違う。
- ・共通の課題に対しては、連携することは可能だが…。
- ・自分たちの町内会(参加者間)で防災に関して情報交換をするのはどうか。
⇒近隣町内会にも参加を呼び掛けてもいいのでは。
- ・各地域でどういう取り組みをしてどんな課題が出てきているのか。
- ・市民たちの提言や、好事例の紹介。マンション向けのマニュアルはアパートにも共通することができるのでは。住宅地でのマニュアルも他の町内会に紹介できる。

チーム 寄り道出来るまち

活発な議論が交わされ、企画案が決まりました。

「寄り道できるまちとは??」

- ・テーマは交流、人と人のつながり
- ・今は人(高校生含む)が集まれる場所がない。
- ・外に出たら、寄り道できる場所、集まれる場所が幾つもあるまち
- ・どういうまちを作っていきたいか子どもたち、大人たちが一緒に考えられる場所。
- ・必要な情報以外の情報も入ってきて自分の興味外の事を知り、さらにつながりが増える場所。

参加者のやりたいこと①

- ・中高生を集めて地域の生徒会のようなものを作りたい。
- ⇒若い人たちが自由に集まり他者を気にすることなく意見を発信できる場づくり
- ⇒卒業して終わりではなく、地域と関わり続ける場として
- ⇒共感した人が参加できるように

参加者のやりたいこと②

- 寄り道出来る。歩く場所ない。顔が見える関係性ない。=そういったチャンスがない。
- きっかけを作る。まちを作るのは大変だけど、多くの人が参加でき共通体験が共有できる1日(イベント的なもの)を作るのはどうか。

なぜそう考えたのか？

年齢に関係なく誰もが委縮せず自由に発言・発信・表現できる場を作りたい。

- ・大人を前にしても子どもが委縮せず発言できる。単独意見でもちゃんと反対と言えるようにしたい。
- ・賛成はしないけれど、理解はしてくれる。という場があれば、少数意見の人でも委縮しなくて済む。
- ・皆それぞれ思いを持って暮らしている。自分たちがしていることを肯定したい。間違いはなくてそれぞれが正解。自由に発信できる場を作りたい。

例えば、神社の絵馬。様々な人が願い事を書く。他者に憚らず本音が出ている。そういうフラットな状況。

チーム内の意見や考えを再度整理し、どのように進めるか
企画案が決まりました。

企画案

「寄り道できるまち」プロジェクト(仮)の実行委員会を作る。

= 参加する人が気がねなく企画を考える場を作るためには？

⇒ 実行委員会の在り方 少人数で企画を立て、共感してもらった人たちに加わってもらうのか？
企画を立てる段階から、様々な人々に加わってもらうのか？

- ・参加者が能動的に意見が言える仕組みを考える。
- ・創生ラボのような仕組みを考える。
- ・緩やかな感じでどなたでも参加できるような場を作ろうよ。と言える場を作ろう。